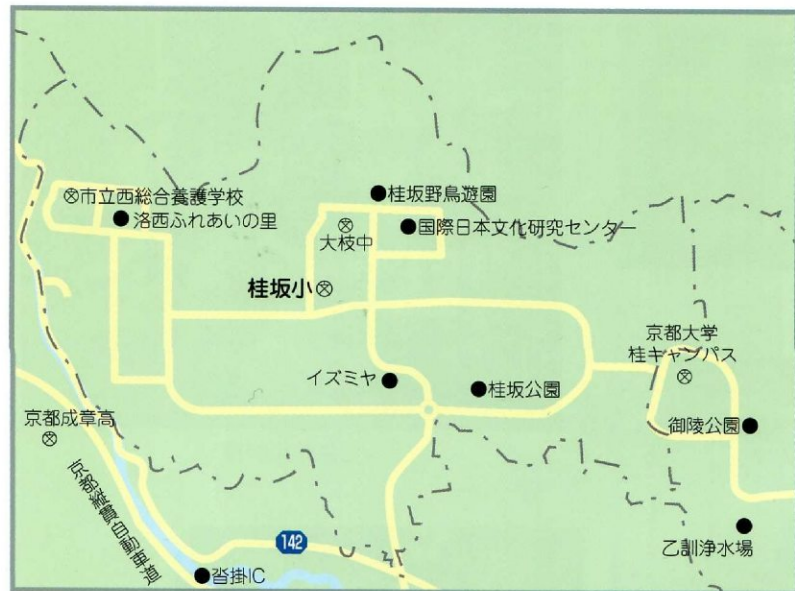


桂坂学区



データファイル

- 人口 10,981人
 - 世帯数 3,310世帯
 - 面積 2.416km²
- *平成17年国勢調査(10月1日現在)



自然との共生をめざして

西京区内で最も新しい学区桂坂は、開発の当初から「自然と人との共生」を念頭において「まちづくり」が行われてきました。柿畑や竹林におおわれた丘陵地が切り拓かれて出来ただけに、「野鳥遊園」という施設の名が示すように自然の恵みをうまくとり込むようにして「まち」全体が設計されています。

1988年4月の「かえで自治会」設立を皮切に、今では樹木の名を冠した14の自治会が連合体をつくり、各種団体とともに「自由な雰囲気」の漂う「安心安全のまち」桂坂を目指した自治活動の確かな流れを作っています。

学区内には桂坂小学校・大枝中学校・西総合養護学校などの教育施設、ふれあい会館をはじめとする福祉関係の施設、学術研究の国際日本文化研究センター（日文研）があり、これらの存在がまた私たち住民の、まちづくりの活動内容を大きく豊にしてくれます。

「山の手倶楽部」が小学生に昔の遊びを伝え、小・中学生は恒常的に養護学校生と交流を重ね、「日文研」の先生が小学校高学年を対象に「出前授業」を行うなど、この地域ならではのふれあい第一の光景が見られます。

これらの活動に現れる「ふれあい」の姿は自

治会草創期の「お早うございます」の「声かけ」運動に端を発します。以来、春と秋の「統一ふれあいクリーンデー」、夏祭り、学区民体育祭、総合自主防災訓練などに合い言葉のように引き継がれ、毎年5月の緑の季節に開催される「桂坂みどり会」には、この学区を支える各自治会、各種団体、各施設の長が会し、活動の確認と親睦交流を図ります。

このように桂坂学区では、自治会活動が活発に行われており、平成18年度には地域での身近な環境保全活動に関し、自治連合会が、京都府環境保全功労者表彰を受け、また、京都市自治記念式典において、自治連合会安全推進委員会に地域の安心安全ネットワーク形成特別感謝状が贈られました。

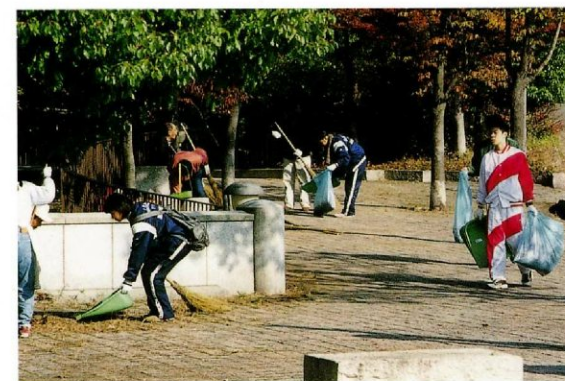
街路の四通八達する市街地とは異なり災害時に孤立しかねない桂坂では「まちは自ら守る」という高い防災意識が求められます。東地区や隣接する京大桂キャンパスではなお建設の槌音が響きますが、「桂坂」に息づく活力の中で高齢者が平安裡に暮らし、児童も安心して遊び、学び、健全に成長することを願って私たちは活動を続けることになります。



日本文化の研究拠点「国際日本文化研究センター」



桂坂公園の洋風の「東屋」を隔てて東を望む



統一ふれあいクリーンデー



買い物便利な大型スーパー



建設途上にある京大桂キャンパス



山の手倶楽部の「見守り隊」に迎えられて登校



リヤカーに防災七つ道具を積んで（総合自主防災訓練）